

---

○議長（阿部真之助） これより本日の会議を開きます。

日程第1、一般質問を行います。発言通告者のうちから順次質問を許します。今林ひであき議員。

2〇21番（今林ひであき）登壇 おはようございます。私は市立病院のあり方について、ラグビーワールドカップ2019福岡開催について、市立幼稚園跡地の活用について、以上3点について質問いたします。

最初に、市立病院のあり方について質問いたします。

まずは市立病院の過去の経緯を振り返り、将来の市立病院のあり方、特に現在の市民病院のあり方について議論させていただければと思っております。

皆さんも御存じのとおり、本市には現在、こども病院と市民病院があります。また、その前身は第一病院、西新病院、少年保養所及び荒津病院の4つの病院です。この4つの病院の設立経緯については、長くなりますので、省略させていただきますが、この4つの病院は昭和49年に西新病院と少年保養所をこども病院として整備し、荒津病院は感染症センターとして、こども病院に併設する案が検討されました。その後、昭和51年、病院事業運営審議会が小児医療部門と感染症医療部門を持つ高度専門的な医療を行うということで新病院を建設し、一方、西新病院と少年保養所はその廃止はやむなしとなりました。そのような経緯で、子どもの命を守るという崇高な理念のもと、西日本地区における高度小児医療と感染症対応を提供する病院として、昭和55年にこども病院・感染症センターが開院しました。このこども病院・感染症センターに対する評価は、多くの方が当時の市長である進藤市長の英断だと言われております。こども病院・感染症センターは、子どもの

医療としては、本市の市民だけではなく、西日本一円から広く患者を受け入れてまいりました。また、感染症対応では、第1種指定として県内唯一の医療機関、さらに、第2種として都市圏唯一の機関として対応してまいりました。その後、建物の老朽化、狭隘化により、さらに、高度専門医療に迅速に対応することを求められたことから、平成14年になりますけれども、病院事業運営審議会において、こども病院・感染症センターが持っている子ども医療の機能と市民病院の大人の医療の機能を有機的に結合させ、子どもから大人までの一貫した医療を提供できるよう、両病院を統合し、一体的に整備することが求められるとの答申がありました。その流れで、平成17年にはこども病院と市民病院のアイランドシティへの移転統合を骨子とした病院基本構想が策定されました。しかしながら、その後、市長の交代等も相まって、この構想は破棄されたようです。

新しい市長にかわり、平成20年にこども病院の移転建てかえと今後の市民病院のあり方について別々に審議会に諮問され、その後、新たな病院基本構想により、こども病院が単独でアイランドシティに新病院として整備され、移転することになったと認識しております。しかし、統合の是非については、平成20年の病院事業運営審議会を初め、その後の審議会でも一度も議論されず、宙に浮いている状況だと思っております。また、私は審議会の委員として就任させていただいた当時から、審議会でも市立病院のあり方について、特に市民病院のあり方について、そして、統合についても議論すべきであることを何度も申し上げてまいりました。私は過去の議会質問でも申し上げているように、先にこども病院の移転が完了しており、物理的な統合はできないかもしれないが、統合という言葉の中に秘められた考え方、それは統合によるスケールメリットの発揮で、赤字を抑えると

という意味があり、理論的な考え方や手法によっては公立病院の役割と赤字問題との課題解決が進められるとっております。

そこで、お尋ねいたしますが、現在、行政として市立病院のあり方についてどのような検討を行っているのか、教えてください。

市民病院の沿革については、質問の関係上、2問目にしたいとっております。

そこで、次の質問に移ります。

続いて、ラグビーワールドカップ 2019 福岡開催についてお尋ねいたします。

ラグビーワールドカップの日本大会は、あと3カ月余り、ことしの9月にいよいよ開幕します。福岡でも3試合の開催予定です。本市でも平成27年に福岡の開催決定以降、レベルファイブスタジアムの改修を行い、また、県と共同で推進委員会も設置しました。観客の交通輸送の計画策定などに取り組む一方、プレイベントなどを行い、大会の機運醸成に努めるなど、着々と準備が進められております。いよいよ本番、円滑な大会運営や観客をおもてなしし、必ず大会を成功させたいものです。

そこで、お尋ねしますが、ラグビーワールドカップの開催に向けた現在の準備状況はどうなっているのか、教えてください。特に観客のスタジアムまでの輸送に当たっては、我が会派の地元議員でもある鬼塚議員も渋滞対策や生活道路への入り込み、迷惑駐車防止など、地元地域への配慮をお願いしておりますが、現在どのような対策をとられているのか、教えてください。

この大会がいかにかにすごいかについて少しお話をさせていただきます。

この大会は夏季オリンピック、FIFAワールドカップに並ぶ世界三大スポーツ大会と

言われており、前回は約 250 万人がスタジアムに来場し、世界中で 40 億人以上がテレビで観戦したと言われております。また、この大会が 4 年に 1 度ではなく、一生に一度の大会と言われるのは、次に日本での大会がいつになるのかわからないということと、あわせて選手にとっても一生に一度しか出場できないかもしれないという過酷なスポーツであるということもあります。また、その感動を受けるのも一生に一度のものだということだと思います。大会期間も約 1 カ月半と長いことから、海外からの観客の中には長期間にわたり日本に滞在される方もいらっしゃると思います。ここ本市でも 9 月と 10 月にレベルファイブスタジアムでアイルランド、フランスなどのラグビー強豪国の試合が開催され、国内外から多くのラグビーファンが観戦に訪れると思います。これを機会に福岡を国内外にアピールするためには、試合を楽しんでいただくだけではなく、食、観光、おもてなしなど、福岡のよさを観客の方に感じていただければと思います。特にこれまで余り福岡を訪れたことがない欧米からの多くの方々も観戦しに、また、観光客として来福することが見込まれます。

そこで、お尋ねしますが、本市において福岡を訪れるラグビーファンをどのようにおもてなしするのか、教えてください。特に欧米など、アジア以外からの観光客を受け入れる環境整備などにどのように取り組んでいるのか、教えてください。

次に、市立幼稚園跡地の活用について質問いたします。

平成 30 年 3 月に閉園した市立和白幼稚園、入部幼稚園、内野幼稚園の跡地の活用に当たっては、昨年度、用途を子ども関連施設に限定して事業者を公募いたしました。その結果、和白幼稚園跡地については民間保育園が決定したところです。しかしながら、入部幼

稚園、内野幼稚園の跡地についてはいまだに決まっていないようです。廃園された市立幼稚園は福岡市に合併した際に町立から引き継いだという特殊な事情があり、私を初め、地域の方々は廃園に際しては特別な思いを持っています。そうした中、行政の方々も地域の声に耳を傾けていただき、跡地については子ども関連施設という方針決定に対しては、地域の一員としても感謝をしているところでございます。

そこで、お尋ねしますが、和白幼稚園跡地に整備される民間保育園について、現在の進捗状況を教えてください。

また、入部と内野幼稚園の跡地活用について、現在の検討状況を教えてください。

なお、入部、内野については、公募に当たり、条件として対象用途から認定こども園や認可保育所を除外したとの説明を受けました。確かに平成 30 年 4 月 1 日時点のこの地域での待機児童数がゼロ、未入所児童数が 2 人であることや地域内における既存保育園で定員をふやす予定があったということもあるでしょう。今年度に控える雁の巣幼稚園跡地の活用も心配になります。

そこで、お尋ねしますが、雁の巣地域の近隣における待機児童数と未入所児童数について、また、今年度、この地域は保育園の公募エリアに選定されるようになるのか、お尋ねします。

以上で 1 問目を終わり、2 問目以降については自席にて質問させていただきます。

3〇議長（阿部真之助） 舟越保健福祉局長。

4〇保健福祉局長（舟越伸一） 市立病院のあり方についての御質問にお答えをいたします。

市民病院につきましては、平成 20 年の福岡市病院事業運営審議会において、当面は現在の施設を活用して存続させることが適当であるが、経営改善が不十分な場合や施設老朽化の時期に医療環境や財政状況など、諸条件を踏まえて市民病院のあり方について再度検討する必要があると答申をされており、また、同年の市議会において、地方独立行政法人への移行後に検証及びその結果を経て、そのあり方について検討することと決議されております。これを踏まえて、現在、経営改善の達成状況や独法化による効果、施設設備の状況などの市民病院の現状、また、医療環境の変化や将来見通しなどを十分に勘案しながら、市立病院の果たすべき役割、機能に関する分析や課題の整理を進めているところでございます。以上でございます。

50 議長（阿部真之助） 下川市民局長。

60 市民局長（下川祥二） ラグビーワールドカップ福岡開催に関する御質問にお答えいたします。

現在の準備状況のお尋ねですが、まず、観戦客の交通輸送については、昨年 11 月に行いましたリハーサル結果等をもとに、実施計画を策定し、交通事業者や県警などの関係者との最終的な調整を進めるとともに、地元自治会、町内会へ計画内容の説明などを行っているところでございます。また、大会公式イベントとして開催するファンゾーンについては、開催日程等を決定し、ステージ内容や出展ブースの調整を行っております。さらに、まちを大会公式デザインで飾るシティドレッシングについては、天神や博多駅、スタジアム周辺など、大会期間中の装飾箇所を決定するとともに、博多駅等の広告媒体を利用した装飾の準備を進めているところでございます。

次に、交通対策につきましては、スタジアムには観戦客用の駐車場を設けず、福岡空港から徒歩またはシャトルバスで来場いただくことや、スタジアムから一定の距離を置いた場所に設置する臨時駐車場から観戦客をバスで輸送するパーク・アンド・バスライドの実施に加え、福岡県警の御協力のもとに行うスタジアム前面道路の交通規制や周辺交差点での信号操作により渋滞抑制に取り組むこととしております。また、徒歩経路上の各交差点には警備員を配置し、観戦客の安全確保や生活道路への入り込みの抑制などに取り組むとともに、迷惑駐車が想定される箇所へ警備員が巡回することにより迷惑駐車防止に取り組むこととしております。

最後に、福岡を訪れるラグビーファンへのおもてなしにつきましては、JR博多駅前広場に設置するファンゾーンをおもてなしの中心と考えており、他会場での試合も観戦できるパブリックビューイングを実施するとともに、博多祇園山笠振興会の御協力によりラグビーワールドカップデザインの山笠の展示を予定しております。また、福岡ならではの食べ物や着物の着つけ体験などのブースの出展も検討しており、ラグビーファンの皆様に福岡や日本の文化を楽しんでいただきたいと思います。以上でございます。

7〇議長（阿部真之助） 高島経済観光文化局長。

8〇経済観光文化局長（高島 収） ラグビーワールドカップ福岡開催についてお答えをいたします。

欧米からの観光客の受け入れ環境の整備につきましては、これまでミュージアムや公共交通機関等において多言語表示や Fukuoka City Wi-Fi の整備、キャッシュレスの推進などを行ってきたところでございます。ラグビーワールドカップに向けましては、欧米から

の観光客を受け入れる飲食店や小売店などを掘り起こし、メニューの多言語化やキャッシュレスの促進に取り組むこととしております。また、博多旧市街エリアにおいては、英語を含めた多言語観光案内板のデザインの統一化を進めているところであり、ワールドカップ期間中には夜の魅力向上を図るイベントを開催するなど、地元の皆様等と連携して受け入れ環境の充実を図ってまいります。以上でございます。

9〇議長（阿部真之助） 星子教育長。

10〇教育長（星子明夫） 市立幼稚園跡地についての御質問にお答えいたします。

和白幼稚園跡地は、跡地公募において平成 30 年 12 月に決定した事業者が平成 31 年 2 月に認可保育所の設置運営者として選定されております。その後、事業者と土地売買契約を締結し、平成 31 年 3 月に土地を引き渡しており、現在、事業者において令和 2 年 4 月の保育所開所に向け、準備が進められております。

次に、入部幼稚園及び内野幼稚園の跡地は用途を子ども関連施設に限定し、平成 30 年 8 月から平成 31 年 4 月の間、2 度、跡地を活用する民間事業者を公募しました。しかし、いずれも応募がなかったことから、民間による子ども関連施設としての需要は見込めないと考えており、このような状況を踏まえ、検討を進める必要があると考えております。以上です。

11〇議長（阿部真之助） 高田こども未来局長。

12〇こども未来局長（高田浩輝） 市立幼稚園跡地についての御質問にお答えいたします。

雁の巣幼稚園跡地がある和白、美和台地域の待機児童数等につきましては、平成 31 年

4月1日現在の待機児童数は1人、未入所児童数は48人となっております。また、令和3年4月開所に向けた保育所公募における和臼、美和台地域の取り扱いにつきましては、この地域において令和2年4月に保育所3園の開所が予定されていることを踏まえ、今後、保育需要の動向を見きわめながら適切に判断してまいります。以上でございます。

13〇議長（阿部真之助） 今林ひであき議員。

14〇21番（今林ひであき） それでは、2問目に入ります。

まずは市立病院のあり方について質問いたします。

今度は市民病院の経緯について振り返ります。市民病院の前身は近隣にあった第一病院です。その第一病院は地域医療を提供する一般的な総合病院として運営されていたようです。ここで注目してほしいのは、当時は風邪などでも受診できる地域医療としての一般病院を市が経営していたということです。その後、昭和59年には病院事業運営審議会で第一病院の整備のあり方について、近隣に移転することが前提でもあったため、地域医療を基礎としつつ、地域に不足する高度医療、特に肝臓及び腎臓の疾患に対して専門的医療を提供する総合病院にという答申を受け、平成元年に新たに市民病院として開院しました。この時点でも市民病院は地域医療を基礎としている病院であるということです。しかしながら、このころから、今、国の示す公立病院ガイドラインにあるように、公立病院としての役割と言われる高度医療、専門的医療への方向にかじが切られたように思います。さらに、平成14年の審議会、17年の構想では、こども病院と市民病院をアイランドシティへ移転統合し、市民病院は大人の医療として公立病院としての役割を果たす病院に特化すると考えられていました。しかし、その後の平成20年の審議会でも方向性が一変し、独立行

政法人化後に経営状況を見て、老朽化の時期を見て市民病院のあり方を検討することとし、当面は現在の施設を活用し存続させることになりました。最大の懸案である公立病院の役割と統合の是非については議論することなく、市民病院の今後は先延ばしとなりました。

そこで、質問いたしますが、市民病院は既に 30 年を経過し、今現在は平成 20 年答申の検討時期と言われる老朽化の時期に達していると思います。また、病院事業運営審議会でも老朽化の視点で議論があっていると思いますので、審議会での意見、行政の考え方を示してください。

今、市民病院では感染症ベッドを新たに整備されています。平成 20 年の答申、基本構想では、感染症医療機関の指定を辞退することが検討されました。こども病院内に子どもにとって危険な感染症が同居することに疑問が生じたためと記憶しております。しかし、感染症ベッドは多くの都市では政令市か県庁所在地にあり、この指定を辞退することは感染症対策を本市が放棄するとの印象に映りました。そのため、その後に就任した高島市長は、今後いつ起きてもおかしくない新型インフルエンザを初めとする重大な感染症に対応すべく、感染症ベッドをこども病院から市民病院に移し、4床を整備すると決断されました。この市長の英断には私も大賛成です。将来、この判断が正しかったと言われることを信じています。また、今、市民病院の移転に反対で、現地に存続すべきとの意見があることは承知しております。地域医療、中核病院を担っている現状、さらに今回、感染症、救急診療棟を新たに整備したからだと思います。市民病院のあり方については紆余曲折したこともあり、さまざまな意見があっても仕方がないと思っております。しかし、開院後、

既に 30 年経過し、何度も申し上げるように、平成 14 年の統合という答申から 17 年経過し、20 年の先延ばし答申から既に 10 年を経過しております。私は一刻も早く老朽化を含めたあり方の検討を進めていくべきだと思います。

そこで、お尋ねしますが、市民病院のあり方の検討が進まない原因として、市はよく医療環境の変化を挙げられています。どういったものがあるのか、確認させてください。

続いて、ラグビーワールドカップ福岡開催について質問いたします。

なぜ本市が国際大会を誘致するのか、開催する意義について当然言われるのが、福岡に来られる観戦、観光客の増加による地域経済の活性化などがあります。もっと大きく言えば、知名度アップによる都市ブランドの向上などで、国際都市福岡の浸透ではないでしょうか。これにより本市のさらなる成長、発展が見込まれます。私はそれ以外にも、今回はラグビーを初めとしたスポーツの振興が図られることも大事だと思っております。この大会を契機に、子ども、若者たちが野球、サッカー、バスケットなどのプロスポーツのトップレベル競技を目指すことから、高齢者までの市民が気軽にできる早朝野球からランニングに至るまで、市民スポーツが振興され、憩い、ストレス解消、健康増進等に寄与するまでになればよいと思っております。特に未来を担う子どもたちには、ラグビーを初め、世界トップレベルのプレーに間近に見て触れることで、人類のすばらしさを感じてほしいと思っております。できれば子どもたちにはスタジアムでじかに試合を観戦させ、その迫力を体感させたいものです。福岡は公認チームキャンプ地に選ばれたことにより、イタリア、アメリカ、サモアの 3 カ国の代表選手が試合に向けたトレーニングのため市内に滞在します。各国代表選手との触れ合いが実現すれば、子どもたちにとっても二度とない貴重

な経験となるはずです。

そこで、お尋ねいたしますが、子どもたちの観戦や選手との交流に向けてどのように取り組んでいくのか、お答えください。

また、世界最高峰の大会を会場で観戦される方だけではなく、多くの市民の方に接していただくためにどのような取り組みを進めるのか、お尋ねいたします。

続いて、市立幼稚園跡地の活用についてであります。

和白幼稚園跡地に整備予定の民間保育園については、令和2年4月の開所に向けて準備が進められているとのこと。その中で、車による送迎などについて事前に地域から要望している事項があることは御存じだと思います。この跡地周辺の道路は狭隘化しており、そのため、一方通行などの交通規制もあります。交通体系が複雑であるため、車による送迎に当たっては安全に配慮していただくように地域から要望があっているはず。特に出入り口周辺の住民からは、送迎の際、出入り口の安全確保、路上駐車を懸念する声もあります。また、隣接している障がい者の施設からも安全に対する要望があっていると思います。特段の配慮が必要かと思えます。しかし一方で、地域からの要望として、業者からの具体的な説明がなく、一体どうなっているのかという声が聞かれます。地域に対する説明が不足しているのではないかと思います。できるだけ丁寧な説明が必要と考えます。

そこで、お尋ねしますが、和白幼稚園跡地の事業者決定後、市及び事業者は地域、特に隣接者の方々に対して、いつどのような説明や対応をされたのか、特に車の送迎に対する地域からの要望についてどのように対応するのか、お尋ねいたします。

次に、入部幼稚園と内野幼稚園の跡地についてですが、民間による子ども関連施設での需要が見込めないとの答弁でしたが、今後も跡地活用の方向性が決まらなると地域も不安になります。

そこで、お尋ねしますが、入部幼稚園、内野幼稚園の跡地について、子ども関連施設の需要がないということですが、今後どのように跡地活用を検討されていくのか、お尋ねいたします。

次に、雁の巣幼稚園跡地についてですが、この近隣地域では来年4月に新たに民間の保育園が3園も設置される予定です。そのため、地域の多くの方々から雁の巣幼稚園跡地にさらに保育園を誘致して大丈夫なのかという声が寄せられています。今の局長の答弁では、この近隣地域における今後の保育園の整備状況についてどうするのか、よくわかりませんでした。しかし、私はこの地域における子ども関連施設、特に認可保育園の必要性については慎重に検討する必要があると思います。最初に申し上げたとおり、地域の願いとして、子ども関連施設の誘致はぜひかなえてほしいと思いますが、入部、内野と同様に、認可保育園を除外すれば公募がゼロということにもなりかねません。一方で、認可保育園が選定された場合も共倒れの心配があります。

そこで、お尋ねしますが、雁の巣幼稚園跡地の活用にあたっての現在の検討状況をお伺いします。

以上で2問目を終わります。

15〇議長（阿部真之助） 舟越保健福祉局長。

16○保健福祉局長（舟越伸一） 市立病院のあり方についての御質問にお答えをいたします。

まず、病院事業運営審議会での御意見などについてですが、同審議会では、諮問事項がない場合でも原則として年1回報告を行うこととなっております。過去3年間の同審議会での報告においてなされた市民病院の老朽化に関する御意見といたしましては、建築後30年が経過し、医療の変化のスピードに建物や人が対応できるかなどの多角的な検討が必要である、また、建物の老朽化ではなく、中身の老朽化が進んでいるのではないかとといった御意見がございました。福岡市では、建築後30年が経過していることを踏まえまして、病院機構の第3期中期目標において、将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、既存の施設設備の計画的な維持管理に取り組むよう指示をしており、市民病院ではアセットマネジメント推進の観点から、建物の中長期維持管理計画を策定し、施設設備の適切な維持管理を行っているところでございます。福岡市といたしましては、準備が整いましたら、市民病院のあり方について同審議会に諮問をいたしまして、市立病院として果たすべき役割や機能、そして、施設のあり方などについて御審議をいただきたいと考えてございます。

次に、公立病院を取り巻く医療環境の変化につきましては、大きく3点あると考えております。まず1点目は、地域医療構想の動きでございます。地域医療構想は平成26年の医療介護総合確保推進法に基づき制度化されたもので、2025年のあるべき医療提供体制の実現に向けて、主に急性期から回復期への病床機能の転換を進めていくものです。公立病院につきましては、民間の医療機関に先駆けて役割の明確化や病床機能の見直しなどを

進めることが求められており、2025年のあるべき姿を示した公的医療機関等2025プランを作成し、地域の医療関係者との協議の上、合意を得るよう求められております。2点目は、公立病院改革の動きです。平成27年に策定された国の新公立病院改革ガイドラインに基づき、公立病院は民間医療機関との適切な役割分担のもとに、地域に必要な医療提供体制を確保するため、さらなる経営の効率化や他の病院との再編、ネットワーク化などに取り組むよう求められております。さらに、国は全国的に公的病院の病床再編が進んでいないとの認識のもとで、ことしの夏ごろまでに公的病院の診療状況等を検証し、類似機能との再編などの議論が必要な場合には地域での再協議を求めるとされております。

3点目は、働き方改革の動きです。今般、国の有識者会議において、医師や医療従事者の働き方改革に関する取り組み方針が取りまとめられましたが、今後、医師等の労働時間短縮や医療資源の効率的な配置の観点から、地域医療提供体制における機能分化、連携が求められていくものと考えられます。

このように、市民病院のあり方検討につきましては、これに大きな影響を及ぼす医療環境の変化を十分に勘案し、これを反映させながら進めていくことが不可欠であると考えております。以上でございます。

17〇議長（阿部真之助） 下川市民局長。

18〇市民局長（下川祥二） ラグビーワールドカップ福岡開催に関する御質問にお答えいたします。

子どもたちの試合観戦につきましては、ラグビーワールドカップ2019福岡開催推進委員会が県内、市内の小中学校、特別支援学校や高等学校に対し、試合観戦に関する希望調

査を行っており、できるだけ多くの子どもたちが観戦し、ラグビーのすばらしさを体験できるよう、教育委員会や各学校と連携し、取り組んでまいります。

また、子どもたちとの交流については、本市で公認キャンプを行うチームによる学校訪問などの実現に向け、大会を主催する組織委員会と調整を進めてまいります。

次に、多くの市民の皆様にはラグビーワールドカップのすばらしさを感じていただくための取り組みにつきましては、大会前に予定されております日本代表戦のパブリックビューイングの実施や各種のイベントでの広報活動を通じて大会の機運醸成に取り組むとともに、チケットの販売促進に努め、スタジアムで直接観戦し、ラグビーワールドカップの醍醐味を味わっていただきたいと考えております。また、大会期間中にはシティドレッシングの実施を通じて大会の雰囲気を感じていただくとともに、日本代表戦を含む他会場の試合もパブリックビューイングにより連日放映し、スタジアムで観戦できない多くの市民の方にも大会のすばらしさを感じていただきたいと考えております。以上でございます。

19〇議長（阿部真之助） 星子教育長。

20〇教育長（星子明夫） 市立幼稚園跡地についての御質問にお答えいたします。

和白幼稚園跡地は、平成 31 年 4 月に開催された和白校区自治協議会定例会において、教育委員会の職員も同席し、事業者から認可保育所の整備概要を説明するとともに、隣接者の方々にも整備概要の資料を配付しております。また、地域からの要望である送迎車対策は、敷地内に 13 台分の駐車場を確保するとともに、車両の出入り口を分けて敷地内の動線を一方通行にするほか、混雑時には交通誘導員を配置するなどの対策を計画しております。今後とも、近隣を含め、地域の御意見を伺いながら、周辺交通に配慮された跡地整

備内容となるよう事業者に働きかけを行ってまいります。

次に、入部幼稚園及び内野幼稚園の跡地は、今後とも、地域の御意見を伺いながら関係局と協議、調整を行い、跡地活用の検討を進めてまいります。

次に、雁の巣幼稚園跡地は、平成 31 年 3 月に実施した行政需要調査において、子どもに関する施設について問い合わせがあり、その必要性を含め、関係局とさまざまな観点から検討を進めております。以上です。

21○議長（阿部真之助） 今林ひであき議員。

22○21 番（今林ひであき） それでは、3 問目に入ります。

まずは市民病院のあり方についてです。

現在、市民病院が過去の経緯から、そして、今言われる医療環境、地域構想などの役割、特に県の示す医療圏域との関係で、その拠点にあることから、地域医療を基礎として、地域の中核的な病院として重要な役割を担っていることは認識しております。しかし、地域医療、中核病院は公立にしかできないことでしょうか。民間でも可能であれば、それこそ民間活力を発揮させる方向を検討し、こども病院、市民病院は公立病院の役割に特化すべきだと思います。つまり現地である今の場所に現在の機能を存続させるべきとの側に立った場合、この場所に地域医療、中核病院という現在の機能が残れば、そして、それでよいということであれば、この役割を民間病院にでもお願いすることができれば問題は解決すると思います。

私は行政が医療環境の変化に対応する必要があると言われる場合、その大前提として、民間と公立の役割を明確にしておくことが大事だと思っております。公立病院に期待され

る役割としては、民間医療機関では限界のある高度先進医療や高度救急医療などであり、民間病院でも対応できる地域医療ではないと考えます。なぜ高度先進医療や高度救急医療などは民間ではなかなか実施されないのか。つまり不採算で赤字が原因だと言われます。民間では赤字ではなかなか手を出しません。だけど、誰かが行う必要があります。だから、公立の役割として、不採算部門にも対応することが位置づけられていると思います。我が会派では、そのための赤字なら市民の理解は得られると考えています。しかし一方で、赤字はできるだけ抑えることも重要であります。一般的な病院の採算性を見ると、スケールメリットが発揮されやすい400床程度の病院のほうが、200床の病床がある今の別々の2病院よりも採算がよいと言われております。このことが市立病院の統合がよいとの結論に至る根拠の一つになっているはずです。そのことを踏まえて、私たちは議会で平成20年9月に市立病院のあり方についての決議を行ったと思っております。

そこで、お尋ねしますが、病院施設の再整備には時間がかかります。施設自体ではなく、医療機能の老朽化を考えた場合、一刻も早く病院事業運営審議会に諮問し、議会や市民の意見も聞きながら、市立病院、特に市民病院のあり方を検討していく必要があると思っておりますが、御所見をお伺いします。

次に、ラグビーワールドカップ福岡開催についてです。

試合観戦や選手との交流は前途洋々たる子どもたちにとって有意義な体験、特別な経験となるはずです。さらに、市民の皆様にとっても市民スポーツの振興により、憩いと健康という財産が多くの方に残ればよいと思います。私たち市議会におきましても、平成27年10月にラグビーワールドカップ2019福岡の成功を目指す福岡市議会議員の会、ラグ

ビー議連を立ち上げております。議長を筆頭に、オール市議会で盛り上げていければと思っております。来年は東京オリンピック・パラリンピック、そして、再来年には本市では世界水泳選手権という非常に大きな国際スポーツ大会が開催されます。

そこで、この質問の最後に、要望になりますが、今回の開催を契機に、高まるスポーツ熱を燃やし続け、大会のレガシーを次の大会につなげるため、全市一丸となって取り組みを行い、さらに、今後とも、スポーツ大会の誘致に努め、国際都市福岡の魅力を世界に向けて発信し続けられるようお願いして、この質問は終わります。

最後に、市立幼稚園跡地の活用についてです。

和白幼稚園の跡地は、地域と協議しながら、しっかり開設者との調整を行っていただくように要望いたします。

また、入部幼稚園、内野幼稚園の跡地活用については、これまでの2回の公募で応募者がいなかったことを踏まえ、地域の方々とよく話し合いを行っていただきながら、用途を子ども関連施設以外に広げるなど、何らかの工夫を施し、早期に活用が図られるように努力をお願いいたします。

さらに、雁の巣幼稚園跡地については、市内部の行政需要調査において子ども関連施設に問い合わせが来ているということであり、その必要性も含め、検討されているとの答弁でした。ぜひ子ども関連施設が誘致できるように関係局とも協議を進めてほしいと思います。

最後になりますが、跡地活用の事業者の選定について要望があります。和白幼稚園跡地の活用について、事業者を決定するため総合評価の点数を見たところ、落選した事業者の

ほうが提案内容ではまさっていました。しかし、土地購入の価格で逆転してしまいました。土地購入で大きな負担をした分、保育内容がおろそかになる気がしました。地域の財産でもある跡地活用であり、提案内容をより重視していただくように要望して、私の質問を終わります。ありがとうございました。

23○議長（阿部真之助） 舟越保健福祉局長。

24○保健福祉局長（舟越伸一） 市立病院のあり方についての御質問にお答えをいたします。

市民病院のあり方につきましては、現在、経営改善の達成状況や独法化による効果などの市民病院の現状や公立病院を取り巻く大きな医療環境の変化などを勘案し、これを反映させながら必要な分析や課題の整理を鋭意進めているところでございます。今後、準備が整いましたら、病院事業運営審議会に諮問し、御審議をいただくとともに、議会や市民の御意見も伺いながら、市民病院の果たすべき役割や機能等について検討を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。